

西夏文『新集金碎掌置文』の研究 2

小高裕次
(文藻外語學院)

A Study of "Gold Nuggets in the Palm" 2

KOTAKA, Yuji
(Wenzao Urusuline College of Languages)

キーワード：西夏語, 『新集金碎掌置文』

0. はじめに

0.1. 本稿の目的

筆者は小高(2005)において、西夏人によって作られた西夏文字の識字教育用テキストである『新集金碎掌置文(以下、『金碎』と略)』の序文を紹介し、その日本語訳を試みた。本稿では、引き続き本文第1連から第25連までの紹介と日本語訳を行う。

0.2. 先行研究補遺

先行研究として、小高(2005)では聂・史(1995)および西田(1970a・1970b・1997)の各論文を挙げたが、西田(1998)においても『金碎』について触れられている箇所があったのを見落としていたため、ここで先行研究リストに付け加えておく。なお、西田(1998)では第10連および第11連の日本語訳が掲げられている。

1. 本論

以下に『金碎』本文第1連から第25連までの全文と日本語訳を掲げる。

1) 天地世界悠 日月爾刻現

1mI 2ldwi:q' 1ryur 2kyeq 2ne: 2bi ?lhi:? 1chI:2 2zyonq 2sha:¹⁾

天地世界の始まりは、日と月がその時現れる

1) 西夏語の推定音は、西田(1997)に基づく。また、表記は基本的に荒川(2002)の簡易表記に従っている。なお、小高(2005)では緊喉母音を-kによって表していたが、本稿からは-qに改めることにする。

2) **明夜左右輪**

1seu 1na 1zi:q' 1cyir 2jye

明と暗が左右に回り、熱きと冷たきが上下に合わさる

熱冷頁低合

1tsa: 2daq 2phyu 2bi: 2gwe

3) **種物稼成 能**

2mI 2'war 1lenq 1shyen 2ni:2

種々の物は芽を出すことが出来、季節は順に従って並ぶ
能 2ni:2 可能を表す助動詞である。

季節次随列

2lu 1tser 1cyIn 1byu 1byo

4) **春解 寅卯竜**

2nI:2 2byi 2ldi 1tsir 1wi

春の開きは寅卯辰、夏の茂りは巳午未

夏茂 蛇午羊

2jI: 2phu' 2phyo 1ge: 2mo:

寅卯竜 2ldi 1tsir 1wi 西田(1997)が記しているように、西夏語の十二支は寅から始まる。
また、寅 2ldi・竜 1wi はそれぞれ動物名「虎」「竜」を一般的に表す語でもある。
蛇午羊 2phyo 1ge: 2mo: 蛇 2phyo は動物名「蛇」を一般的に表す語でもある。

5) **秋果 申鳥戌**

1tsiq' 1ma:' 1wi:q 1jo:n 1na

秋の果実は申酉戌、冬収めるのは亥子丑

冬匿 亥鼠牡

1tsur 1lu 1gyu 1fi: 2bu:'

申鳥戌 1wi:k 1jo:n 1na 鳥 1jo:n は動物名「鳥」を一般的に表す語でもある。

6) **該今 朝晨東**

1pI: 1se: 2be: 1'a 2wi:q'

いま朝は東、昼の影は正しく南

晟臬 影匡南

1II: 2le: 2rIr 1cyen 1zI:r

該今 1pI: 1se: 該 1pI: は「今朝」「今年」等の場合の「今」に、今 1se: は「いま現在」
に相当する。
朝晨 2be: 1'a 二字共に「朝」を意味する。
晟臬 1II: 2le 二字共に「昼」「日中」を意味する。『掌中珠』では「卓午」の訳語として用いられている。
影匡南 2rIr 1cyen 1zI:r 意味のとりづらい箇所である。北半球にある西夏では昼の影は
北側にできるはずであるが、ここでは直訳して「影は正しく南」としておく。

7) 昏夕暮杳西

2lyeq2 1'u: 2de 1mur ?li:?

夕暮れは西、宿の寝床の夜は北

昏夕暮杳 2lyeq2 1'u: 2de 1mur 四字全て「夕方」「暮れ」を意味する。

曖暝 1sho 2ryen 二字共に「夜」を表す。

棲片 曖暝北

2yyar' 2lu:' 1sho 2ryen 1tsha:q

8) 翌翊已 未流

1na 2rar 1shi: 2me: 2rar

明日はまだ過ぎず、あさって・しあさっては後に来た。

翌翊 1na 2rar 「明日」『掌中珠』に収録されている。

未 2me: 行為の発生を否定する否定辞。

晁暎 2sa: 2'wI 『掌中珠』に晁暎 2sa: 「後日」暎暎 2'wI 「外後日」という語が収録されている。

リ 2rI:r 完了を表示する動詞接辞。

晁暎後 リ徠

2sa: 2'wI 1lduq 2rI:r 1la:

9) 昼宕 ア順属

2nyIn2 2yI: 1'a? 1she: 1wIn

今日と昨日は一つに属し、年は二つ共に斉しい

歳 是隴俱斉

1vi: 1ta: 2lo:n 2zi:q' 1thu'2

昼宕 2nyIn2 2yI: 前後を入れ替えた宕日であれば、『文海』で見られるように「昨日」と解釈できるが、ここでは日一字で「今日」、宕一字で「昨日」を表していると考えられる。

ア順 1'a? 1she: 「共に」「一緒に」という意味を表す(参照：林(1994)、Кычанов(2006)等)。

是 1ta: 名詞述語文において主語を示す助詞。

10) 截換時十二

2khuq 2le 1dzyen2 2'aq 1nyIn

分かれる時は十二、月は沈んでまた満ち栄える。

朗 1e: 西田(1998)によれば、朗 1e:は「縮月」、すなわち欠けていく月を意味する。

朗淪復満栄

1she: 1mu 2yi:q 1swI 1vyeq2

11) 晚曦年 期為

2gI: 2zi:q' 1keu: 2yyar' 2vwi

夜と昼が年となり、臘月と正月は新と旧との出会い。

期 2yyar' 先行研究では「日(にち)」と訳されることが多いが、「期間」を意味するの

臘肇旧新遭

1ryeq2 1co:n 1kwi: 1seu: 2jyu

がこの文字の本義ではないかと筆者は考える。

臘肇 1ryeq2 1co:n 『掌中珠』に臘月「臘月(十二月)」肇月「正月」が収録されている。

12) **幼老寿増除** **此以第料定**

1thi:q2 2thar 2zyonq 1lhu: 1tenq 2thI: 2gu2 2tseu 2du: 2dyen

若さと老いは年の足し引き、これを以て順序をはかり定める。

此 2thI: 近称の指示代名詞。

13) **其亦智者出** **帝作戒礼起**

1tha: 1no" 2senq 2myeq'2 2to 1dzwi: 1wi: 1kyi 2tyenq 1sho

また智者が出(い)でて、帝となって規律を起こす。

其 1tha: 遠称の指示代名詞。

亦 1no" 順接の接続詞。

14) **ギミ姓類多** **族衆父童稠**

2ngwi 1mi: 2mI 1nenq 2ryeq2 1mI:r 1'i: 1wa: 2gi: 1ldaq

「嵬名」は族類が多く、族衆は父子が多い。

ギミ 2ngwi 1mi: 「嵬名」は西夏の王族の姓。

15) **四海キ監轄** **八山孰跟闌**

1ldyIr 2ngo:n 1kI: 2dzyu 1ldeng 1ya:r 1ngIr 1swI: 2ri:r 1se'

四海を見渡し、八山は誰と争う。

キ 1kI: 完了を表す動詞接辞。

轄 1ldeng 底本では偏の下一画を欠くが、そのような文字は『同音』にも『文海』・『文海雑類』にも存在しないため、轄 1ldeng 「悟る」の誤記であると判断した。

孰 1swI 疑問代名詞。

跟 2ri:r 共格の格助詞。

16) **国饒習行学** **王臣小魁頭**

2lhe? 2bi:' 2syIn2 ?ji? 1'yeu 2ne: 2bi: 2seu 2khwe 1jyu

国を治めることを習い業を学び、王と臣との小・大が顕らかになる。

17) **頂裳雲蓋巖** **身衣腰敞索**

2cheu: 2cye 2nyenq2 2pwyuq 2lu:' 2lyuq 1lhu2 2ki:r 2zeu' 2zu

天辺に戴く雲の冠は巖か、身の衣は腰巻きをまとう。

頂裳雲蓋巖 2cheu: 2cye 2nyenq2 2pwyuq 2lu:' 句全体の意味がとりにくい。裳 2cye・蓋 2pwyuq の二字は、共に「冠」という名詞としても「戴く」という動詞としても用いられる。ここでは、かりに上記のように訳しておいた。

18) **衷庭聖光 称** **殿堂 賢座坐**

2kuq 2waq 2shyen 1bi: 1chwo:n 2pwyuq 2rI:r 2mi' 2gu2 2su'

内宮には聖なる光が称え、殿堂にて御座に坐る

称 1chwo:n 本来「名前」「文」等の語を目的語にとり「のたまう」「称する」等の意味を表す語であるが、ここでは聖光 2shyen 1bi: 「聖なる光」を主語ととらえ、「称える」という意味を表しているのではないかと推測した。

賢座 2mi' 2gu2 賢 2mi' は「賢」あるいは「神」を表すため、賢座 2mi' 2gu2 は「神の座」とも解釈できるが、ここでは Кычанов(2006)にある「御座」と解釈し、天子が位につく様子を描写していると考ええる。

19) **皇后 柵宮住** **大孩楼閣戲**

1ngI:r 1tshon 2kuq 1mi:' 1ny'e:' 2lenq 2no 1du: 2ryen 2'u

皇后は後宮に住まい、太子は楼閣で戯れる

柵宮 2kuq 1mi:' 漢語「後宮」の訳語として、『妙法蓮華経』で用いられている。

20) **丞測前到弥** **官 迺詔旨許**

2myeq'2 2dza 2'yu 2khe: 1mi: 1kon 2ni: 2zur 1ngu'2 1fa:q

高官は推し量って前に到って聞き、官たちは詔勅を発する

丞 2myeq'2 「高官」を意味する。底本とした No.741 の『金砕』では臣 2bi: 「臣」と書かれていたが、臣 2bi: は既に 16 行目で使用されており、これでは同じ字が反復されることになる。一方、No.742 では丞 2myeq'2 と書かれていたため、こちらを採用した。

迺 2ni: ここでは複数を表す名詞接尾辞として用いられている。

21) **央辺 拘司措** **諸城商税 拔**

2ngu 2byu 1bwe 1ra:r 1thu 1ryur 2wi 2ji 2zenq ?

中央にも辺境にも捕縛司を置き、諸城は商いの税をとる

拘司 1bwe 1ra:r 官職名のものであるが、詳細は不明。拘 1bwe は「縛る」を意味し、司 1ra:r は「X 司 1ra:r」の形で「～司」という官職名を形成するため、仮に「捕縛司」

と訳しておく。犯罪者を捕らえる警察のような機能を果たしていたのではないだろうか。抜？ 抜？には「抜く、抜き取る」という用法と均一にする「ならず」という用法があるが、ここでは前者の用法を採り、「徴税する」の意であると考える。

22) 爵位辯 録浄 軍馬戦 秘密

1tsyer2 2dzi:q' ?nwI: ? 2bo:r 1se 1ga: 1rye'2 1'we 2ryen2 2du'2

爵位の弁は中書、軍馬の戦は枢密

爵位 1tsyer2 2dzi: 爵位。

録浄 2bo:r 1se 国家の機関名。『掌中珠』には「中書」の訳として用いられている。

秘密 ryen2 2du'2 国家の機関名。『掌中珠』には「枢密」の訳として用いられている。

23) 議判共場断 帚掃 勤事統

1pi:q 2dzyen 2gu 1lhwoq2 1pha: 1'wonq 2kho 2yI:r 2naq 2dzI:

宰相は公の場で決断し、 清掃は(?)サービスを判断する

議判 1pi:q 2dzyen それぞれの字義は「議論する」「判断する」であるが、『類林』では議判 1pi:q 2dzyen の形で「上卿」「丞相」の訳語として用いられる。ここでは現在も用いられる「宰相」を訳語として選んだ。

帚掃 1'wonq 2kho 共に「清掃する」という意味を持つ語である。

勤事 2yI:r 2naq それぞれの字義は「勤める」「事」であるが、ここでは Кычанов(2006)による「服務」という訳を採用したい。

句全体としての意味がとりづらい。聂鸿音・史金波(1995)は「御史断常务」と訳している。『掌中珠』には官職名として統帚 2dzI: 1'wonq 「御史」が挙げられているが、上記論文には帚掃 1'wonq 2kho を「御史」と訳せる根拠は示されていない。

24) 棄弃 審輯局 牧蒔畜農御

1bI 1dzI: 1chyIn 1khyIn2 1cyu 1lheu 1ldi:q2 ? 1syonq 1chyen

放棄する磨堪局、牧畜・農耕を御する。

棄弃 1bI 1dzI: 共に「棄てる」を意味する。

審輯 1chyIn 1khyIn2 『掌中珠』に官職の名として審輯司 1chyIn 1khyIn2 1ra:r 「磨堪司」が挙げられている。「放棄する」と「磨堪局」の結びつきがわかりにくい、この部分は国内の平和な様子の描写が続いているため、「国中が平和ですることがない磨堪局はうち捨てられている」程度の意味ではないかと解釈しておく。

牧蒔畜農 1lheu 1ldi:q2 ? 1syonq 牧 1lheu・畜?の二字が「牧畜」を、蒔 1ldi:q2・農 1syonq の二字が「農耕」を表すため、直訳すれば「牧農畜耕」とでもすべきであるが、理解しづらくなるため上記のような訳文とした。

25) 賞罰 徳等巡

2bu:' 2bo: 2cha: 1ka 1jenq

賞罰は平等に行われ、万の民の服さぬ(もの)は無い。

万庶 不服莫

2khI: 2se: 1mi: 1wIn 1me:

徳等 2cha: 1ka 徳 2cha: は漢語「徳」に相当することが多いが、徳等 2cha: 1ka では「平等」の意味を表す。仏典では常用される表現である。

不服莫 1mi: 1wIn 1me: 不 1mi: は動詞に前置されて後の動詞を否定する。莫 1me: は形容詞「無い」。全体で「服さぬ(もの)は無い」という二重否定の表現になっている。

参考文献

- 荒川慎太郎(1997)「西夏語通韻字典」『言語学研究』16:1-151
- 荒川慎太郎(2002)『西夏文『金剛經』の研究』, 京都大学博士論文
- 俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所 中國社會科學院民族研究所 上海古籍出版社 編
(1999)『俄藏黑水城文獻 10』, 上海古籍出版社
- 骨勒茂才著、黄振华・聂鸿音・史金波整理(1989)『番汉合时掌中珠』, 宁夏人民出版社
- 小高裕次(2003)「東アジア漢字文化圏における識字教育の一例 - 『千字文』『百家姓』と『新集金碎掌置文』 - 」『東アジア言語研究』6:30-38
- 小高裕次(2003)「論西夏文『金碎掌置文』」, 西夏語文研討會 於: 中央研究院語言學研究所(台北)
- 小高裕次(2005)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 1」『東アジア言語研究』, 6:1-8
- Кычанов, Е. И.(2006), *Словаль Тангутскао (Си Ся) Языка*, Университет Киото
- 李範文・中嶋幹起 編著 (1997)『電腦處理 西夏文雜字研究』, 不二出版
- 林英津(1994)『華譯《孫子兵法》研究』上下, 中央研究院歷史語言研究所
- 聂鸿音・史金波(1995)「西夏文本《碎金》研究」『宁夏大学学报』7(2):8-17
- 西田龍雄(1964)『西夏語の研究 - 西夏語の再構成と西夏語の解読』, 座右宝刊行会
- 西田龍雄(1966)『西夏語の研究 - 西夏語の再構成と西夏語の解読』, 座右宝刊行会
- 西田龍雄(1970)「西夏王国の性格とその文化」『岩波講座 世界歴史 9 中世 3』:63-86, 岩波書店
- 西田龍雄(1970)「西夏」『モンゴル帝国』:80-86, 世界文化社
- 西田龍雄(1997)「『新集金碎掌置文』」『西夏王国の言語と文化』:352-357, 岩波書店
- 西田龍雄(1998)「西夏文字解読の新段階」『ユリイカ』30:6, 68-76, 青土社
- 西田龍雄編(2005)『ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支部所蔵西夏文「妙法蓮華經」 写真版(鳩摩羅什訳対照)』, 創価学会